《日々のこと〔５〕》　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和３年１１月１７日

**時代遅れ**

《時代遅れ》

◆　「時代遅れ」という言葉には，「時代の変化に対応できていない・古臭い・流行遅れ」などのマイ

ナスのイメージがあります。と同時に，一定の年齢になっている者には，自分が大事にしたい価値

観や生きてきた時代への哀惜，その時代の一部としての自分へのいとおしみなどの気持ちが含

まれている印象もあります。

◆　もともとは，マイナス的な一つの意味として使われるようになっていたことに，人の情の要素が

介在・反映されるようになってきて，「含蓄・趣きがある言葉」の一つになってきたのだろうと私

見的に思っています。

《不易と流行》

◆　「時代遅れ」という言葉を含蓄・趣きがある言葉として捉えてみると，「不易と流行」という言葉

との関連性にも思いが巡る感じがします。ネット辞書によると，「不易と流行」という言葉は，もと

もとは松尾芭蕉の俳諧の門人たちが蕉風俳諧の理念についての論議を経る中での捉え方の一

つとして出てきているようです。ネット辞書類の解説自体にも幅があり，概ねは，対比的な意味を

有する語であることを前提に，「新しさを求めてたえず変化する流行性にこそ、永遠に変わること

のない不易の本質があり，不易と流行とは根元において一つである」としてありますが，「正反対

の概念が一つであるとは分かりにくい」という趣旨の解説をわざわざしているのもあります。

◆　俳諧論議における「風雅の誠」の概念なども含めて，俳諧の教養に乏しい私は，どうも掴みにく

い感じ（自分の受けとめ方の信憑性への懸念）がしていますが，私を含めて今の多くの人は，俳

諧論議とは離れて，不易・流行のそれぞれの現在的な語彙に基づく対比的な把握や自分なりの

用語概念として論じている状況だろうと思っています。どのような領域の話題として「不易の意

義」「流行の意義」を設定して「違い」に着目しているかということや，逆に「根本において一つ」

とされる語彙内容に着目した上での「バランスの意義」を捉えているかということが大事になる

のだろうと思っています。

◆　さらには，そうした見方・捉え方の前提となる「社会の変化」自体の捉え方と，そうした「変化に

対応する意義」と「変化に対応しない意義」とに視点を分けて考えてみることも必要になってくる

と思います。

《社会の変化》

◆　「社会の変化」という言葉も，言葉自体は普通に使用されていて語彙の混乱もないように思い

ますが，言葉が持つ意味合いが広すぎて，その言葉を用いる人が，どのような内容・領域・要素

などをイメージして「社会の変化」と称しているかについての見極めが必要になる時があります。

社会構造や社会秩序などの全体の意味合いから政治・経済・外交・文化・教育・生活様式などの

領域・要素などについても，概念規定なく使用されている言葉だと思っています。

◆　時が流れる要素を前提とすると，「社会の変化」についても，どの程度の時間幅として変化・変

容を捉えるかも大事な要素だと思っています。短期的な見方なのか長期的な見方なのかでも論

点にかなりの違いが生じることと思います。変化・変容の目まぐるしい状況の現代とそれほどの

スピード感ではなかったであろう過去の時代との変化・変容の捉え方にも違いが生じることと思

っています。

◆　また，そうした事実的なことに対して，そのことをどのように受けとめたり考えたり捉えたりする

かという精神活動領域についても，社会の在り方との繋がりの中で変化・変容していくのが通常

の姿だと思っていて，その領域も「社会の変化」に属することだと思っています。更には，個人的

な体験や年齢の積み重ねの状況によって，社会と自分との在り方や社会自体の捉え方も変容す

るものだと思っています。

《変化に対応する意義》

◆　自分が職業や立場として社会や組織などと直接的な関わりを有している場合には，「時の流れ」

に応ずる形でそれらのことの全てが繋がって変化・変容することが「自明の理」なので，当人の思

いや意思とは関係なく「変化対応すること自体」が求められますし，自分の在り方そのものにも

「変化に対応すること」が内在していることの理解も大事になります。そのことを前提に「変化に

対応する意義」までを自己整理することが大事なことだと思っています。

◆　制度全体に大きな影響を与える法令変更，種々の社会的な要請に基づく所属組織の方針・ル

ールなどの変化などは，社会の在り方・要請の在り方などに「少しだけ先見的な見方」を持って

いると，特に公的な機関である学校に属している人は，それなりに「先を読んだ対応準備」が可

能だと思っています。新学習指導要領に対する対応，働き方改革に対する対応，ICT機器整備

に対する対応などは学校現場で具現化が求められる数年以上前から，方向性・理念・求められる

水準などのそれなりの姿はかなり明確になっていたと思っています。大まかでも自分が所属する

学校・組織がどのような準備を段階的に行っておくことが合理的なことであるかやその必要度が

理解できておくと，実際的にはかなりの手戻りや無駄に焦った動きなどをコントロールできると

思っています。

《変化に対応しない意義》

◆　「時の流れ」に基づいて本来的・必然的に変化・変容する社会に対して，大きく捉えて，個人の

レベルでは精神活動としての価値判断が強く関わる時に「変化対応しない意義」が生じるように

思っています。現実的な社会の在り方・現象面との関連性が強くて多くの人が尊重している（縛

られている）価値軸とは次元が異なる「普遍的な価値軸」を個人のレベルで整理していて，自分

の在り方・生き方として，意識的に表層的な変化対応をしなくても対応判断を誤ることがないよ

うな事例が該当するように思います。

◆　「流れに掉さす」という言葉が，もともとの「流れに乗って，勢いを増すこと」の意であることに

対して，誤用として「時流にあらがう」という意味で用いられることもしばしばあるとの指摘があ

りましたが，誤用が広がる背景には，背景自体の変化・変容の理由もあるようにも思います。「時

流にあらがう」という言葉には，世界の細々した情報までもが日々の生活の中にまで届き，周囲

の人も同じ情報を手にしていると思うようになった現在社会の在り方の中で，自分を見失いたく

ないというような「個人的な美学」を大事にしたいと思う気概のようなものが働いているような

気配も感じます。

◆　こうした見方・捉え方の中で，位置付け方が難しいのが，「時の流れ・社会の変化」の中で，日常

生活に関わりの強い「文明の利器」のような道具類の格段の進歩状況（便利さの追求）と，そこ

からもたらされる「情報の類の集め方・接し方」に関することだと思っています。学校現場にワー

プロ・パソコンが入りだした頃からICT端末機器を業務処理でも授業でも活用する状況になっ

た現在までの間に，実はそうした機器類に対応したり習熟したりすることに苦手意識を持ってい

た教員の中で（理由は別に設けながらも）早期退職を願ったり実際に退職したりした人もそれな

りの数であったように思いますし，タブレットなどの授業活用が求められる新たな段階になりつつ

ある現在も似た状況になっているのかも知れないと思います。

《日常生活の便利さとしての変化対応》

◆　ネット環境の目を見張る進展，ICT機器の機能化などを「時流」として捉えると，そうした「時流」

に沿う形で変化対応していく考え方と，私のように退職を経ての生活の中で変化対応をあまり

意識しない考え方との「折り合い」をどのように位置付けるかも多少の考え方整理が働いている

ように思います。社会や組織との関りが少なくなった私自身の現在の状況を通しての考え方と

生活感覚を確認しておこうと思います。

【基本的な日常】　・・・　家族などに介護が必要な状況もなく，ほぼ毎日，自分で自分の行動を決め

て実行することができる状況であり，コロナ禍の自粛も手伝って退職後は多く（ほとんど）の日々

を一日中自分の部屋で過ごしていて，自室での生活の快適さも大事な要素となっています。

【ネット環境など】　・・・　Wi-Fi設定をしていて，自室の掘り炬燵の居場所からネットに繋がってい

るパソコン２台のうち１台を常時ネット対応用に使用しています。現職の時には，仕事との兼ね合

いもありタブレットと携帯を併用していましたが，今はスマホだけにしていて，自室ではこのパソ

コンでネット対応・メイル設定もLINE・Gmail・Zoomも設定して活用していますし，テレビ（ゲ

ーム用も兼ねています）やBluetooth等によるステレオも居場所から操作できるようにしてい

て，カープ中継やYouTubeの特定の音楽などを日々楽しんでいる状況です。

【情報対応など】　・・・　自分の関心の在り方やホームページ記事作成の関連から，世の中のできご

と・動向などについては，一定の情報確認をほぼ毎日行っています。ネット情報では検索エンジン

や情報の出所機関などでできごと・動向の扱い方・捉え方などにかなりの違いがあるので，ある

程度複数の捉え方が機能する観点を持ちながら活用しています。Twitterやインスタグラムなど

もアカウントは早い時期に一度作成しましたが，特定の音楽関連を除いたYouTubeも含めて，

日常的に使用することはしていません。そうした形態で情報発信することにも閲覧することにも

意義を感じないというところです。その他の情報源は，新聞1紙と食事時などのテレビのニュー

ス等くらいです。読書は，現職の時もあまりしませんでしたが（マネジメント・人材育成の関連は少

し読みましたが・・）退職後はほとんどしない状況です。

◆　現職の時と比べると，皆無という訳ではないものの社会・組織との関りが格段に少なくなって

いる現在の状況では，仕事業務を介しての「変化に対応する意義」自体が消失していることにな

り，その世界・領域に関する「不易と流行」の見極めも不要になってきているのが実情だと思って

います。現在の生活との関りでは，日常生活の便利さと情報対応の在り方について「時代遅れ」

論議の俎上に載せるかどうかになるかと思いますが，私の場合は現段階では，「文明の利器」に

対して自己判断対応が可能な状況として捉えると，対応全体が自己判断基準・価値軸に属する

ことのように思いますし，そのことを自己評価することもそれほどの意義があるようにも思えない

ように感じます。

◆　ICT環境・ネット環境などがさらに整うと，自室にいて，例えば，世界の歴史遺産・観光箇所な

どを忠実に再現した「仮想空間」に一定の使用料・登録料を払って，自分の分身の「アバター」が

その中で見たいものを探して自分の意志で動ける状況になったり，自分の「アバター」が学校に

通って「アバター教師」のもとで他の「アバター仲間」とともに学んだり協議したりすることができ

る状況になるだろうと思っています。個人であれ社会であれ，マイナス要素を減じる「文明の利器」

の恩恵は享受する意義が大きいと思いますが，別の動機に基づく「プラス要素」をプラスと捉え

て，自分も取り込もうとするかどうかは，自分の判断軸・価値軸に属することだと思っています。

《良い判断を，速くできるようになる》

◆　現職の時には，自分にも周りにも「良い判断を，速くできるようになる」ことを求めていましたが，

退職した立場から捉えると，そこには「良い判断を，速くできるようになる」ことを求める「対応課

題」が眼前にあることが前提になっています。素早く対応することを求める「現実課題」が眼前に

あるからこそ求められる判断力・対応力だと思います。

◆　今の私には，「対応課題」自体があまり多くなく，ほとんどが自分の個人的判断で対応可能です

し，時間的な性急さもほぼありません。ということで，現在は「良い判断」ができることが大事な

ことだと思っています。